

# 記者の目から見た 農作業事故

NHK大分放送局記者 宮本陸也

## 目次

1. 自己紹介
2. これまでの放送やネット記事の配信
3. なぜ「農作業事故」に着目したのか
4. 事故に対する農家の反応とは
5. 放送後の反響
6. まとめ

## 自己紹介

- ▶ 平成30年 NHK入局 NHK大分放送局に配属
- ▶ 県内の事件・事故を中心に取材
- ▶ 日々の取材の中で農作業事故の実態について知る

## これまでの放送やネット記事配信

- ▶ ○WEB特集  
「農作業って実は危ない 一年間の死者300人以上」 (2020年1月9日)
- ▶ ○WEB特集  
「十年間で3450人が死亡 農作業に潜むリスクとは」 (5月18日)
- ▶ ○NHKニュース おはよう日本  
「農作業事故 見過ごされてきた課題」 (6月13日)
- ▶ ○NHKニュース おはよう日本  
「安全装置ない旧型トラクター約24万台  
メーカーでは対策の動き」 (8月1日)

## 放送やネットで伝えたこと

- ▶ 大分県で50年以上農業を続けていた73歳の男性がトラクター事故で死亡
- ▶ トラクターとほぼ同じ幅の坂道を通り、2.5メートル下の田んぼに転落
- ▶ 効率化を求めて大型化していくトラクターなどの農業用機械
- ▶ 一方で、日本の農地の約4割を占める中山間地域は坂が多く狭い農道が目立つ
- ▶ **機械と環境（農地）のミスマッチ**が事故を招く1つの要因に
- ▶ 専門家「事故原因を共有する仕組みや機械に合わせた環境整備が必要」
- ▶ 農機具メーカーでは安全を呼びかけるビデオを制作し車両の危険性を周知
- ▶ 大分県では認証制度GAPの普及を通じて事故防止に取り組む
- ▶ 収穫量を減らしてでも安全性を確保する農家も（鹿児島県指宿市）

## なぜ「農作業事故」に着目したのか ～農業の実態を知って～

- ▶ 交通事故は報道されても、あまり光が当たらない農作業事故
- ▶ 「貴い命が失われる」という点では全く同じ
- ▶ 取材を進めると、農作業の思わぬ実態が。。

## 農作業を取り巻く事故の実態

～農業初心者の僕が知らなかった事実～

- ▶ 「農作業事故の死亡者は年間**300人以上**」

「就業人口10万人あたりの死者数は  
建設業の**2倍以上**」

⇒あまり知られてない!?

- ▶ 日本人にとって身近な産業である「農業」
- ▶ 生産者の実態を広く伝えなくては

## 事故現場で感じた2つの驚き

- ▶ 「こんな危険な場所でいつも農作業をしているのか」  
例) 崖の手前で切り返し、トラクターの幅と同じ農道  
⇒農業初心者の僕が見ると明らかに危険でも、  
長年同じ場所で農作業をしていると気づきにくい

「こんな場所でも死亡事故現場になるのか」

※バランスを取るのが難しいトラクターの場合

例) 緩やかな坂道、ちょっとした段差

⇒便利さゆえに気づきにくい**危険性**

知識や知恵、経験が大事な農業。でもそれが裏目に出ていないか

## 事故に対する農家の反応とは

- ▶ 実際に農作業事故で家族を失った遺族に話を聞いていくと...
- ▶ 「まさかあんなに運転が上手だった夫が、、」
- ▶ 「何十年も農業してきたこの慣れた農場でどうして、、」

⇒見過ごされた農作業リスク

- ▶ 「ニュースで見て、どうしてそんな事故が起きるのかねって話してたのに...」
- ▶ ⇒自分ごととしてとらえることが難しい

## 放送後の反響

6 - 7万PV (ページビュー) 読まれているWEB特集で14万PVを記録

⇒想像以上の大きな反響

(寄せられた声)

「農業ってそもそもそんなに死者がいたのか。恐ろしい」

「トラクターは重心が不安定で本当に怖い」

「実家で父親が乗っているのを見ても危なっかしくて怖い」

「古いトラクターに乗って、デコボコ道を通る時にヒヤっとしたことがある」

☆農業関係者以外にはあまり知られていない実態☆

## まとめ

- ▶ 農家の平均年齢は約67歳と高齢化に歯止めがかからない
- ▶ “農業は危険な産業”という汚名を払拭しなくてはならない
- ▶ さもないと、担い手の確保はますます難しくなる
- ▶ 一方で、「農作業安全」は農家になかなか耳を傾けてもらえない難しい問題
- ▶ 将来の日本の農業を守るために、食を支える人たちの命や安全に本腰を
- ▶ この問題を継続的に取材し、報道機関として事故防止に向けて努めていきます

ご静聴ありがとうございました